

「在籍児童・生徒全員の 学習保障を可能にする リモート授業にするために」

アメリカ ヒューストン日本語補習校 校長 井手登士昭

- アメリカでは3月からCOVID-19の感染が拡大し、3月14日を目の前にして、現地教育委員会は、4月17日まで休校制限を発表。卒業式どころか入学式の実施までもが不透明になってしまった。そこで、幼稚部から高等部まで500名近くの在籍児童・生徒全員の学習をどのように保障していくのか運営委員会、教職員代表との協議を重ね、次のような授業方針を決定した。
 - ① 本年度の授業開始を4月18日からとする。
 - ② 授業方法はオンライン授業とする。（後にリモート授業に変更）
 - ③ 授業対象者は、幼稚部から高等部全児童・生徒とする。
 - ④ 授業時間は、登校による普通授業とほぼ同時間とする。
 - ⑤ 授業教科は、登校による普通授業とほぼ同教科とする。
 - ⑥ 教員への手当は登校による普通授業時と同額とする。
 - ⑦ 授業料の徴収は登校時による普通授業時と同額とする。
- この授業方針に基づき、リモート授業を実施する上での問題点を洗い出し、タイムスケジュールを作成し、具体策を練り上げていった。その結果、運営委員の皆様や教職員の主体的で協働的な取り組みと保護者の皆様の協力により、4月18日という早期に、リモート授業を開始することができ、5月30日で7回目を終えました。そこで、本校リモート授業導入時の概要についてお知らせする。

①なぜ、フェイスtoフェイスでのリモート授業なのか。

- 豊かな日本語を身に付け、日本語によるコミュニケーション能力を發揮させるため
- Pdfで一日分の学習課題を送信したり、一方的な講話では、日本語での読み書きだけとなり、コミュニケーション能力に必要な話す・聞く（対話的な活動）ができない。
- 週に一回とはいえ、教師や友達が存在が確認でき会話できる楽しみがある。
- 教師の発問や子供たちの考えや解答について共有したり、高めたりできる。
- 普通授業により近い状況で指導ができる。



② 以下のような理由から、リモート授業は RingCentral Meetingsを活用する。

- 現在、商工会、補習校事務局のインターネット接続、サポートを受けている。
- 導入支援費用、使用料等のサービスがある。
- 問題発生時のサポートを受けることが出来る。
- 個人情報漏洩問題の発生が無く、教師が入室しない限り開始できない制限がある。
- ポータルでの接続をおこない、パスワードの設定ができる。
- 授業終了時に、教師が各ミーティングを終了できる。
- 任意のグループによる友達同士のチャット使用の禁止、又は制限ができる。

③ リモート授業に必要な教材について

- ポータルを活用し担任から保護者へ、リモート授業時間割、1時間の学習過程やワークシート、問題プリントなどを事前に知らせる。
(水曜日前後)
- プリンターが無い場合は、ノートなどに書き写せる程度の内容を知らせる。
- 基本的に、教科書、副教材を手元で確認しながら授業を進める。

⑤ 指導教科について

- 小学部低学年：国・算
小学部中・高学年：国・算・社
中学部：国・数・社・理
高等部：履修教科（国語総合、現代文、国語表現、
数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、数学A・B）



- 5月中旬に実施した、『本校リモート授業の取り組みに関するアンケート』には、58%の回答率の保護者の皆様からご回答をいただいた。
- 中には、称賛のお言葉、課題や改善策に関する内容について、細やかにコメントをいただいた保護者の皆様も多数あった。
- そこで、その集計結果と明らかになった成果や課題、改善策等について申し述べる。

1 リモート授業に関する全体的な評価について

◎成果

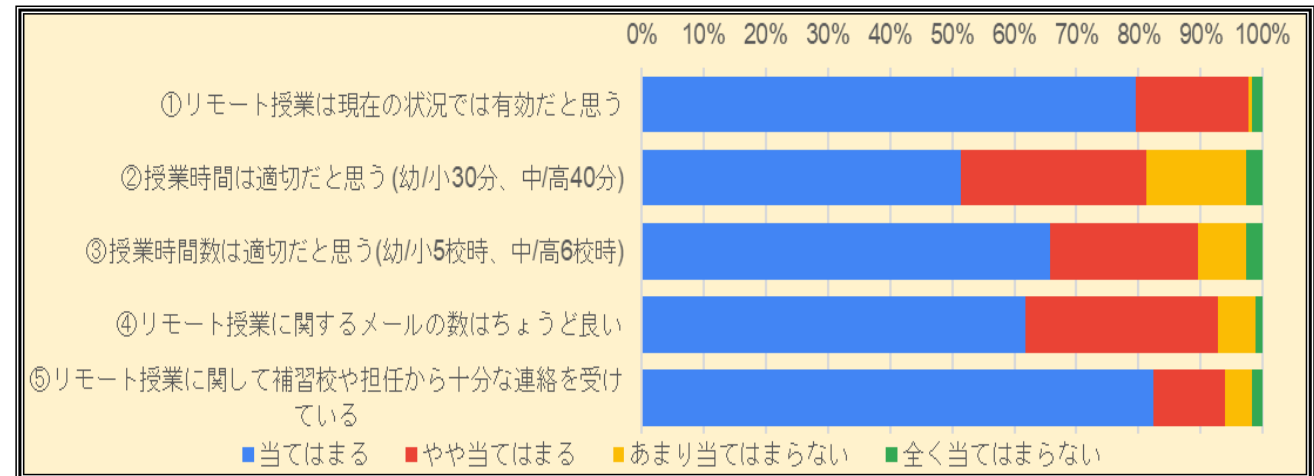
- 現在の状況におけるリモート授業の有効性について、98%が有効であると評価
- 1日の指導時間数について、90%近くが適切であると評価
- リモート授業に関するメールの数について、92%が適切であると評価
- リモート授業に関して補習校や担任からの連絡について、93%が十分に受けていると評価

●課題

- 1単位授業時間について、20%近くのが不十分であるという評価
- リモート授業に関するメールの数について、記述欄で、やや多いと感じている方がいる

◎改善策

- 1単位授業時間を、小学部中・高学年を30分から40分に、中・高等部を40分から45分に変更
- 授業への接続や担任からの連絡について、従来のメール送信から、ポータルでの方法に変更



2 授業内容や宿題などに関する評価について

◎成果

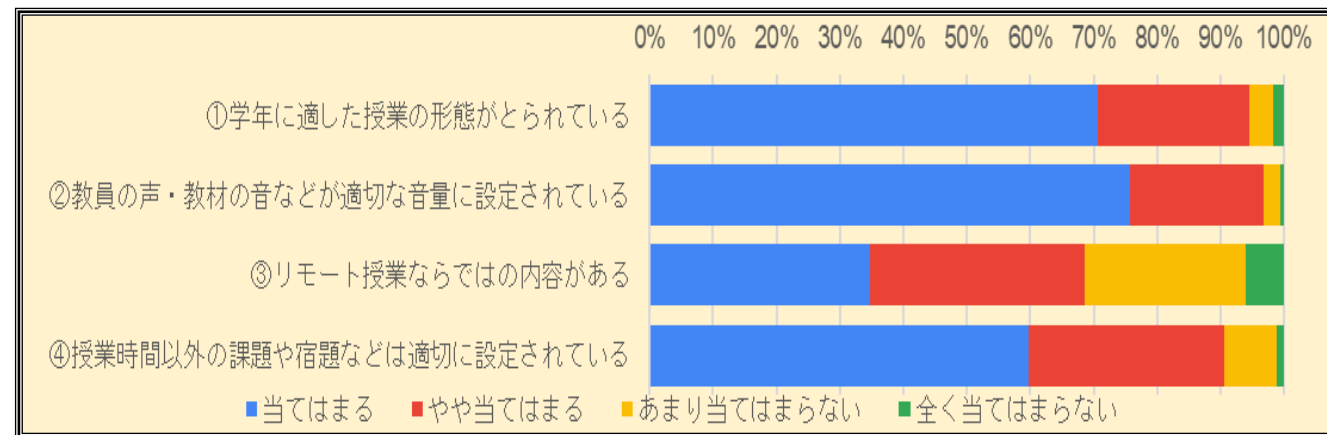
- 学年に適した授業の形態について、94%が適切であると評価
- 教員の声教材の音等の音量について、96%が適切であると評価
- 課題や宿題の設定について、90%が適切であると評価

●課題

- リモート授業の学習内容について、30%以上が指導方法の工夫が必要だと評価
- 課題や宿題について、記述欄で、やや多いと感じている方もいる

◎改善策

- 中・高等部にGoogle classroomの活用を図る。
- 課題や宿題については児童生徒の過重負担にならないよう調整する



3 その他コメント欄への記述内容から

◎成果（称賛）

- 準備期間が短かったにも関わらず、リモート授業開始までの対応の早さと丁寧な広報活動
- 非常時にも関わらず、海外での日本語学習の場を提供いただきありがたい
- 現地校や日本での学習保障対応と比較して本校リモートの取り組みを好意的に評価
- 学級ごとに対面での指導方法で、普通授業より集中して学習に取り組んでいる等

●課題・（改善）

- 指導中のミュートの操作を効果的に行う必要がある（子供同士の声が混ざり合い聞き取り難い）
- 児童・生徒同士の学び合い、コミュニケーションが少ない（学習指導過程を工夫する）
- 授業が無かった2週分の振り替え（8月に振替授業を行う）
- もっと、ITを活用した授業をしてほしい（必要に応じて、動画、Google classroom、アプリケーションの活用、パワーポイントなどを活用）
- 今までの授業形態（全員一斉音読など）にこだわらず、新しい指導方法を取り入れて欲しい（発達段階に応じた指導方法に心掛けているが、指導時間、学習内容を考慮した効果的な活動を工夫していく）